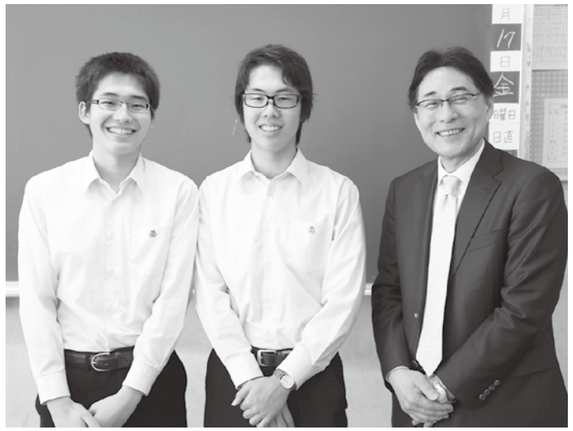
School Now
スクールナウ

城北中学校・高等学校

新たに3か月のターム留学を導入し、グローバルな人材の育成を推進

城北中学校・高等学校では、高1を対象にした3か月間のターム留学を昨年度から行っています。これは、高1の1～3月に留学し、ホームステイをしながら現地の高校生とまったく同じカリキュラムで学ぶプログラム。初年度の説明会には約10名の枠に130組の生徒と保護者が集まるほど、大きな反響を呼びました。今回は、国際教育委員会委員長の紫藤潤一先生と、ターム留学を体験した高2生の2人に、具体的な内容について話を聞きました。



左から
東出 智樹くん(高2)、**大鹿 新之助**くん（高2）、
紫藤 潤一先生（国際教育委員会委員長）

紫藤　5年前にグローバル人材育成教育を見直そうという声が上がり、学内に国際教育委員会を発足したことが始まりです。まずは観光が主体だった15日間のオーストラリア語学研修を、現地の学生などと交流する内容に一新しました。次に、グローバル人材を育成するには、長期プログラムを用意する必要があると考え、昨年度から3か月間のターム留学を導入したのです。対象学年は高1で、期間は3学期の1～3月。1～2学期で学年の単位を満たしてから出発するので、留年を心配する必要がありません。また、1年間の留学では、現地での単位取得を優先しがちですが、3か月の留学であれば、英語の習得に専念しやすいというメリットもあります。留学先はアメリカ、カナダ、オーストラリア、ニュージーランドの4か国。これらの国の約30もの学校から選ぶことができます。日本人だけで固まらないように、現地校1校につき、受け入れ人数も2名までと制限しています。

進級の心配をすることなく、英語習得に専念できる留学制度

―ターム留学を導入した経緯についてお聞かせください。

現地校での授業を通して異文化を肌で感じる

―お二人がターム留学を希望した理由を教えてください。

大鹿　中3のときにオーストラリア語学研修に参加して、もっと英語力を向上させたいと考えたからです。国際問題に興味があり、海外に出て異文化を肌で感じたいと思いました。ぼくが留学先に選んだのは、自然が豊かなニュージーランド北島の北東部にあるタウランガです。

東出　ぼくもオーストラリア語学研修に参加し、2週間では物足りないと感じたからです。また、高1の3学期の授業は大学受験にあまり影響しない科目が多かったので、ターム留学するのにちょうどいい時期だと考えました。1年間の留学を経験した人が身近にいて、英語力が抜群に伸びたと聞いたことも影響しています。留学先はカナダ東部のオタワの近くにあるブロックビルを選びました。

―現地の学校で受けた授業で、印象に残っていることはありますか。

東出　ぼくの行った学校は週5日制で、授業は80分×4コマあり、自分で選択した授業を受けるスタイルでした。数学・英語・公民・歴史などのほか、ドラマという授業を選択しました。これは、渡された台本を使って、ステージ上で役を演じる、まさに「演劇」です。クラスメートとコミュニケーションが取りやすく、友だちを増やすきっかけにもなりました。数学は日本より簡単に感じられたので、コースのレベルを2段階上げました。単位の取得を気にする必要がなく、気軽にレベルを上げられるのもターム留学の良いところです。

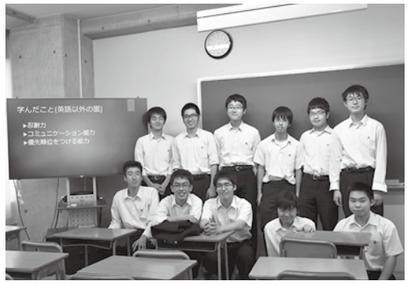
大鹿　ぼくの場合は6時限まで授業がありました。特殊な科目は取らず、英語・数学・理科など主要科目を選択しました。印象的だったのは歴史の授業です。第二次世界大戦についての説明が、日本で教わる内容とは異なっていたので、国が変わると立場や見方も変わるのがおもしろいと感じました。

大鹿くんがターム留学の行き先として選んだのは、ニュージーランド北島のタウランガ。一方の東出くんは、カナダ東部のブロックビルを選びました

―英語力は向上しましたか。

東出　最初のころはホストファミリーに何回も聞き返すくらいおぼつかなく、親戚の5歳の女の子が家に遊びに来たときに、ままごとで英会話の練習をしていました（笑）。また、カナダでは日本の漫画が人気なので、現地校の友人とよく漫画の話をしましたが、好きなことだと会話も弾み、英語もスムーズに出てくるようになりました。帰国後、留学前にまったく理解できなかった英検®準1級のリスニングに挑戦したら、ほとんど聞き取れるようになっていて、自分でも驚きました。

大鹿　現地校には、ドイツ・イタリア・韓国・中国などからの留学生が集まっていたので、イントネーションの違うさまざまな国の友だちと会話を交わせたことは、リスニング力の向上につながったと思います。また、英語以外でも、ホストファミリーに連れていってもらった本格的なフィールドアスレチックで、命綱をつけて木々の間を綱渡りしたことなど、日本ではできないような貴重な体験ができたことも思い出に残っています。



昨年度のターム留学を体験した生徒たち。英語力だけでなく、忍耐力、コミュニケーション能力、優先順位をつける能力が身についたそうです

ターム留学を経験することで将来の夢や目標が具体的に

―有意義な時間を過ごせたようですね。ターム留学を経て、何か夢や目標などはできましたか。

大鹿　今回、最も心に残ったことは、ホストファミリーと毎週日曜日に教会の礼拝に行き、宗教を身近に感じたことです。ホストマザーが買ってくれた日本語訳のついた聖書を見ながら神父さんの話を聞き、真剣に祈りを捧げる方々を間近に見ることで、宗教紛争なども含め、国際問題を解決する職業に就きたいと考えるようになりました。今は、学校の課題とは別に、自分なりに宗教紛争や国際問題についてのレポートをまとめたりしています。

東出　ぼくも今回の留学をきっかけに、海外を視野に入れて将来を考えるようになりました。心理学に興味があるので、アメリカの大学に進学したいと思っています。アメリカは心理学の研究が進んでいるといわれているからです。

紫藤　ターム留学を経て、将来の夢が明確になったのはうれしいことです。成長の証しだと思っています。男子校は女子校や共学校と比べると、留学プログラムの導入が遅れていると感じています。男子校も進化しなければなりません。城北学園ではターム留学のほかに、1年間の留学制度の導入も進めています。また、直接海外の大学に進学するプログラムも検討しています。

学校のプロフィール

城北中学校・高等学校
●所在地
〒174-8711
東京都板橋区東新町2-28-1
東武東上線「上板橋」駅より徒歩10分、東京メトロ有楽町線・副都心線「小竹向原」駅より徒歩20分
●TEL　03-3956-3157(代表)
●HP　www.johoku.ac.jp

《各種行事日程のお知らせ》
●学校説明会(要予約)
7月12日(金)18:00～
10月12日(土)13:30～
2月22日(土)13:30～
●入試説明会(要予約)
11月23日(土・祝)10:00～
11月30日(土)13:30～
●施設見学会(要予約)
8月 3日(土)10:00～
8月10日(土)10:00～
12月14日(土)13:30～
12月15日(日)10:00～
●クラブ体験(要予約)
9月14日(土)午後
11月16日(土)午後
●体験授業(要予約、4・5年生対象)
10月19日(土)午後
●文化祭
9月28日(土)、29日(日)
9:00～16:00
※受験相談コーナーは10:00～

※英検®は、公益財団法人 日本英語検定協会の登録商標です。